

ふくじゅ草の会 たより



福寿草の会
愛川町介護者の会
第170号
2022年7月7日
連絡先 愛川町社会福祉協議会
Tel 046 (285) 2111



80爺さまの(50年前)

ひとりごと②

一度引っ越しというものがあった。どかどかと数人の男たちがやってきて、荷物をがたがたと運び出す。「なんだ、泥棒！」

わしは必死に叫ぶ。嫁という女がわしの前に座り込んで、これまた必死に何やら説明している。しかし人のものを黙って持ち出すとは！

新しい家は2階建てで、嫁たちは2階に部屋ができ、夜も眠れると安心したらしい。

わしとしてはばあさんと二人顔を突き合わせていることになった。ばあさんの顔が一番よくわかる。そして文句も言える。

しかし少しづつ足は弱くなってきた。つかまつて、少ししか歩けない。便所に行くまで間に合わない。はいざりながら漏れ出す。嫁が後ろから雑巾でふきふきついてくる。

そんな生活が終わりを迎える日は近いかも。

食べ物を飲み込む力が弱くなった。医者を呼んでくれたが、何をするわけでもない。

しかしそれでいい。静かに寝ている。何もかもおぼろ。誰もいない。しづかにしづかに息を吸める。これでいい。



認知症と生きるための8か条

- ① 認知症の診断で人生は終わらない
- ② 認知症の正しい情報を得よう
- ③ 制度を知り活用しよう
- ④ 家族だけで抱え込まないで
- ⑤ 仲間と支援者を探そう
- ⑥ 職場の上司や親せきなどに病名を伝えよう
- ⑦ 社会や地域とつながろう
- ⑧ 家族で話し合っておきましょう
(認知症の人と家族の会パンフレットより)



ばあさんが風呂から出て叫ぶ。「じいさまが息していないだ！」

(完)

小沼美枝子

義父は85歳で、当時としては天寿を全うしたのではないかと思います。

しかし亡くなつてから、尾てい骨辺りに深い床ずれができていました。ごめんね、痛かったろうに。体位を交換することも知らず、おむつもまだ市販などされていらず、浴衣の布などを巻き付けていました。無知の介護の悲しさです。

寝ないでガスレンジをガチャガチャやつたり困って病院に行って、睡眠薬か何かもらえませんかと相談したところ、「本人が来ないと薬は出せないよ。薬を飲むと寝つきになるかもしれないよ。だけどそのほうが介護は楽だろ」と言われ、憤慨して帰ってきたこともあります。

人の自然な衰えをただただ受け入れた義父の死だったと思います。

当時、町の保健師さんが訪問してくれ、その時保母の資格をとつたので、いつか仕事をしたいと言つことから数年後保母の道が開けました。

1年8か月の短い義父との生活で、義父の人となりがわからずじまいだったのは残念ですが、義父が私の道を開いてくれたのです。

9月は世界アルツハイマー月間

9月21日は

世界アルツハイマーデー

認知症に関する相談は
公益社団法人
認知症の人と家族の会
神奈川県支部

TEL 045-548-8061
Fax 045-548-8068

町では推進標語を募集中
詳細は広報7月号16ページ
をご覧下さい

5月のつどいは総会でした 24日 参加者 13名

会員の他 高瀬高齢介護課長、河野社協事務局長、地域包括センター村上看護師に参加いたしました、総会を行いました。

昨年度はコロナ禍、制限された活動もありましたが、2カ月に一回の定例会とたよりの発行は行うことができました。

フードバンクへの寄付も行いましたが、必要とされる物と、提供する物との一致が難しいですが、できる範囲内での協力をこれからも行えればと思います。

総会での協議事項は全て了承されました。

今年もよろしくお願ひいたします。

高瀬課長からは、町の高齢化率は31%となり、これからは、ますますフレイル(虚弱)予防事業に力を入れるとのお話がありました。

また、今年度の新規事業として、補聴器購入の際の一部助成(上限2万円)を行いますとのことでした。

河野事務局長からは、成年後見制度について周知して、使ってもらえるように、社協が仲立ちになって推進したいとのお話をありました。

7月のつどい 26日(火)

午後1:30～3:00

町福祉センター3階会議室

話し合い・情報交換など

フードバンクへの寄付についての希望は
レトルト食品(おかずになるもの。カレーは充足しています)
袋入りのインスタントめんがあれば、ありがたいとのことです

9月のつどい 21日(水)

午後1:30～3:00

詳細は次号でお知らせします。国際アルツハイマーデーに当たります。

マスクの着用、
検温の上、ご
加下さい